

夢のつばさプロジェクト 2016年夏キャンプ 学生報告書

【日程】2016年8月6日(土)～9日(火)

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園(青梅市)

【参加者】子ども24名(小学生10名、中学生10名、高校生4名)、
学生48名(途中入れ替わりを含む)、看護師、
社会人スタッフ/協力者18名(同上)

◆2016年夏キャンプについて

今年の夏も、ブリヂストン様をはじめとするたくさんの方々のご支援のもと、東北の子どもたちのためにキャンプを開催することができました。本プロジェクト始動以来、6年目の夏キャンプでした。今回は、前年の冬キャンプと同じく「失敗しても大丈夫！思いっきり〇〇！」をテーマに、学生が企画を運営したり、ゲストの方々をお呼びして子どもたちに貴重な経験をしてもらったりしました。また毎年参加してくれている子どもたちのほか、新たな参加者もあり、雰囲気がますます賑やかになりました。そんな本年度の夏キャンプについて、以下に詳細をご報告させていただきます。

◆スケジュール・概要

	1日目 (6日)	2日目 (7日)	3日目 (8日)	4日目 (9日)
午前	送迎	夏遊び	夢のつばさ ハウス作り	閉会式
午後	開会式 アイスブレイク	Y-1 グランプリ	コカ・コーラ多摩工 場 見学	送迎
夜	音楽会			

1日目

●開会式

嬉しさと少しの緊張が混じるキャンプの開会式。社会人スタッフの挨拶やキャンプ中のルールの説明を一生懸命聞く子どもたちの顔がとても印象的でした。以前は人が前で話していても集中して聞くのが難しい子が多かったのに、だんだんみんな成長しているんだなあと感じる瞬間でした。またキャンプのテーマを発表した時には、昨年の冬キャンプと同じテーマだと気がつく子が多く、子どもたちの心の中に過去のキャンプが残っているということがわかり、とても嬉しく思いました。

●アイスブレイク

今回はアイスブレイクとして、自己紹介ゲーム・もうじゅうがり・ジェスチャーゲームの3つを行いました。お互いを知る、体を動かす、声を出して笑う・・・そうすることで、子どもたちの緊張がほどけていくのが目に見えてわかりました。



●音楽会

ゲストに、バイオリニスト大庭さま・テノール歌手富澤さまをお呼びして、約1時間にわたって素敵な演奏を披露していただきました。子どもたちの中に司会進行をしてくれた子や、ゲストと一緒にトランペットを演奏してくれた子もいました。最後には毎回恒例となっている、「翼をください」を全員で合唱しました。



プロの声量に圧倒されました

2日目

●夏遊び

子どもたちに楽しい夏の思い出をプレゼントするため、今回はスイカ割りや水遊びもタイムスケジュールに組み込みました。目隠しをしてスイカを狙う子をみんなで応援して盛り上がり、割れたスイカは全員で美味しくいただきました。水鉄砲やシャボン玉を手につくと、子どもたちも学生スタッフも全力で遊び出し、いつのまにか服がびしょ濡れになってしまいました。



●Y-1 グランプリ

学生スタッフが5月から一生懸命準備した企画の一つです。「紙飛行機当て」「夢のつばさロゴコンテスト」「トランプピラミッド」「万歩計フリフリ」の4種目を用意し、子どもたちが個人個人で記録やコンテストにチャレンジすること、さらには今回のテーマ「失敗しても大丈夫！思いっきり〇〇！」を意識することを狙っていました。子どもたちはそれぞれに工夫しながら種目に挑戦しており、私たちスタッフはそんな子どもたちの集中力や多彩なアイデアに感動させられました。ロゴコンテストで1位になったデザインは、今後キャンプのしおりの表紙やオリジナルのグッズに使用することを検討しております。



夢のつばさロゴ：ユニークなデザインが並んでいます

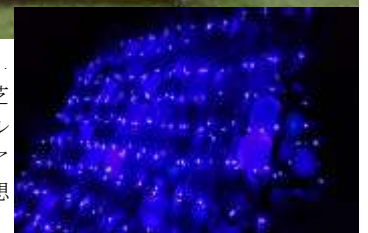
3日目

●夢のつばさハウス作り

ゲストに東京電機大学の岩城和哉教授をお迎えし、木材を使った建築に挑戦しました。子どもたちは、なかなか触れることのない材木や道具に興味深々で、自分から積極的に組み立て作業を手伝う子もいました。組み立てたハウスには、たくさんの風船（子どもたちの絵入り）や看板をつけて装飾しました。そして、この日の夜にはハウスのライトアップも行いましたが、日中はカラフルでポップな印象だったのが、ライトアップされるととても幻想的な印象に変わり、子どもたちからも「おおー！」「きれい！」という歓声があがっていました。



完成：昼は広い芝生の庭でカラフルに。夜はライトアップされて、幻想的に。。



●コカ・コーラ多摩工場 見学

身近なモノが作られる工程を楽しみながら学んでほしいという思いで、コカ・コーラ工場を見学先を選びました。事前に学生スタッフが用意したクイズの答えを探そうと頑張る子や、様々な展示物を見てさわって学んでいる子もいました。

4日目

●閉会式

閉会式は、3日間のうちにたくさん撮った写真をまとめたスライドショーを鑑賞したり、感じたことを振り返りシートを記入したりと、子どもたち自身がキャンプをもう一度最初から思い出せるような内容にしました。いつものことながら、振り返りシートの「次のキャンプに来たい度は？」という項目には、数えられないほど0のついた大きな数字や「∞」の記号を書いてくれる子が何人もいました。また子どもたちを代表して中学生の2人がブリヂストン奥多摩園の職員の方に丁寧にお礼を述べてくれた場面では、これからもみんなにその感謝の気持ちを持ち続けてほしいと願いました。

◆夏キャンプを終えて

「子どもたちの成長」。年に4回しか会う機会はありませんが、私たちはそれを確かに感じています。キャンプのあと、学生スタッフ間は子どもたちの話で持ちきりです。「○○の雰囲気丸くなった」「○○が荷物整理を自分でできるようになっていた」「○○が年下に優しくなった」など、今回もたくさんの良い変化が話題に上がっています。

今回のキャンプでは、初めて小学生と中高生の割合が逆転し、中高生が多くなりました。そのおかげもあってか、子どもたちが指示や話を積極的に聞いたり学生のことを気遣ってくれたりする場面が今まで以上にたくさん見受けられました。企画の運営を手助けしてくれたり、指示が通るように静まったり。設立当初から参加している先輩方のお話では、当初では考えられないほどの成長ぶりだといいます。さまざまな成長を見せてくれることは、私たちスタッフにとってもこの活動が続ける大きな糧になります。これからは、子どもたち一人一人と誠意をもって向き合い、成長を見守り続けられたらとても嬉しく思います。

また今回は、キャンプの初日に、中高生を中心に「普段の生活でスマートフォン・携帯電話を使う時に気をつけたいこと」を考えるワークショップを行いました。保護者の方々から「子どもたちに、スマートフォン・携帯電話との上手な付き合い方を教えて欲しい」とのご要望をいただいていたこと、中高生の参加割合が増えてきたことなどから、子どもたちと共に考えてみようと思いたったものです。メリットデメリットを説明したり、意見を聞いたりしながら話し合いを進めました。この先も子どもたちにこの問題を考え続けてもらいたいと思っていますが、今回のキャンプ中は、今までの「スマホ・携帯電話使用禁止」というルールから「必要な時、周りに配慮ある使い方であれば、一時使用可」というルールに変更しました。今後も、子どもたちの現状を考慮しつつ、キャンプに最適なルールを考え続けていきたいと思っております。

そして、今回のキャンプは私が学生代表を務める最後のキャンプとなりました。この活動に参加した2014年の春から代表を終えた今まで、一貫して私が感じていたことがあります。

それは、夢のつばさのスタッフはみな、参加者の子どもたちに対して、大きな優しさをもって見守り続けたいと考えて活動していますが、また子どもたちからも、たくさんの優しさや温かさをもたらしているということです。与えるだけでなく、もらっている。この温かな関係性は、私たちの団体の誇りであると思います。学生スタッフが運営する部分では、失敗することや考えが至らないことも多々ありますが、子どもたちとのこの強い絆があれば、今後も良い形で続いていけると信じています。

終わりに、今回の夏キャンプや平素よりご尽力・ご協賛くださっているみなさまに、この場をお借りして大きな感謝の意を表しますとともに、今後も変わらぬみなさまのご協力を心よりよろしくお願い申し上げます。

大学生ボランティア代表 お茶の水女子大学3年 野川志織